

いつも一緒 富山のペットたち

寒い冬がやってきました。この季節は外気温と室温の差が激しいため、体調を崩して病院に来るペットが多くなります。今回は、冬を乗り切るための注意点を、説明しましょう。



保田 信一

ドリトル動物病院長
(滑川市上小泉)

冬を乗り切る

趣味 し ジャ

フクチンを接種し、ペットが伝染病にかからないようにすることも大切です。犬や猫、フェ

レットに対しては、ウイルス感染による鼻水、くしゃみ、せきといった呼吸器の病気や、吐き気、下痢などの消化器系の病気を予防する混合ワクチンがあります。

一方、ハムスターやウサギ、小鳥にはこういったワクチンがありません。食事の食べ方、毛のつや、目の輝き、便や尿の状態を観察し、普段から体調管理に気を付けてください。一見元気そうでも、便の量が減って

なつてからでは手遅れです。早めに動物病院に相談してください。動物病院には犬猫専門のところもありますから、小動物を診察しているかどうか、あらかじめ確認しておくこと、いざという時に困らないでしょう。

しこりに注意

高齢の犬と猫で最も気を付けてほしいのは、せきです。せきは、風邪による気道炎ばかりでなく、肺の腫瘍、心臓弁膜症、

栄養状態確認しよう

体重が軽くなってきた、いつもより体温が低く感じられるといったサインを見逃すと、命取りになってしまふことがあります。

保温が第一

これらの小さな動物を家庭で看護するときは、保温が第一です。彼らは人よりも体温が2度ほど高く、平熱が39度近くあります。食欲がない、動きが鈍いと感じたら、周囲の温度を30度ほどに温めてあげてください。ケージ内に温度計を入れ、ペットヒーターなどを使って管理するとよいでしょう。

さらに、エネルギー切れにならないよう、温かくした砂糖水などを与えてカロリーを補います。体が冷たくなり、動けなく

心臓や肺に寄生虫が入り込むフィラリアなど、さまざまなお病気が原因で発生するからです。体にしこりができていないかもチェックしてあげてください。

い。しこりが成長して悪性の腫瘍、いわゆる、がんになってしまふことがあります。人と同じように早期の発見と治療が大事です。年に1度は必ず動物病院で健康状態を診てもらい、伝

染病の予防ワクチンも受けましょう。

最後に、動物の年齢を人間の



17歳（人間の年齢では84歳）のシバイン。高齢犬はせきに注意を



2歳のミニチュアピンシャー。ペットにはワクチンを接種し、伝染病にかからないように気を付けよう

年齢に換算する方法を紹介しましょう。犬や猫は、年齢を4倍して16を足します。20年生きていれば、96歳ぐらいの高齢ということになります。ウサギは8倍して16を足すと、おおよその目安になります。

また、ジャンガリアンハムスターの寿命は3年、ゴールデンハムスターは5年、文鳥は8年、セキセイインコは十数年といわれています。

ペットがそれぞれの天寿を全うするためには、私たち人間の心掛けが何よりも大切です。元気に過ごし、少しでも長生きできるように、健康管理に十分に気を配ってください。

◇ 次回は来年1月10日に掲載します。

2012(平成24)年12月6日
北日本新聞